



大山隠岐国立公園 三瓶山



面積	43,571ha
森林面積	33,648ha
うち私有林	28,208ha
私有林率	84%

1. 大田市の森林・林業

大田市は島根県の中央部に位置し、世界遺産の石見銀山や国立公園の三瓶山を有する、歴史と自然が多く残る地域です。

現在の大田市の原木生産は間伐が主体であり、需要に応じた供給が行えていない状況です。また、このまま主伐に伴う更新が図られなければ、将来的には高齢級に偏った林齢の構成となってしまうことが懸念されます。

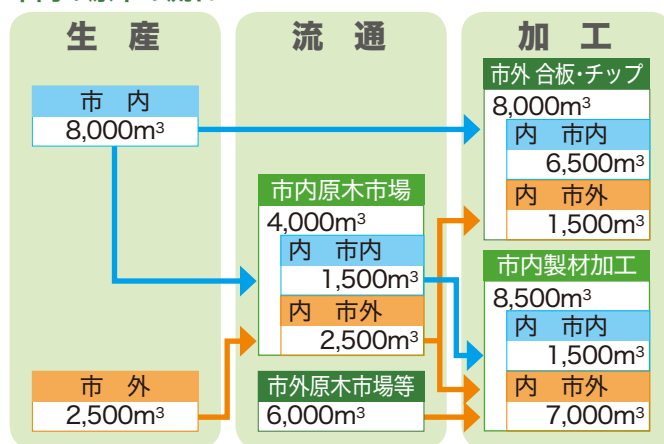
2. 市役所に

「森づくり推進室」を新設

市では地域産業の振興を進めるとともに、森林の有する公益的機能を発揮させるため、森林・林業・木材産業関係の担当部署を強化することを検討し、平成27年度に「森づくり推進室」を新設しました。

森づくり推進室の新設にあたっては、それまでの鳥獣害対策を含む林務担当3名体制から、鳥獣害対策を除いた林務専門の担当とし、さらに島根県、大田市森林組合から林業の専門的な知識

市内の原木の流れ



3. 「大田市未来につなぐ森づくり構想」の策定

市では、市内の森林・林業・木材産業の関係者、建設業者、ボランティア団体や行政が一体となって検討を重ね、平成29年3月に「大田市未来につなぐ森づくり構想」を策定しました。

本構想では、「森林を活かし地域産

を有する職員を各1名派遣していただき、大田市職員3名を加えた5名体制で、林業振興だけでなく森林を活かした地域づくりを進めています。

4. 森づくり構想に沿った取組のきざし

「大田市未来につなぐ森づくり構想」は策定されたばかりですが、本構想の考え方に沿った先行的な取組が既に行われています。ここではその概要を紹介합니다。

①川上での取組

大田市には原木市場や製材工場が集積するとともに、近隣市町には、合板、木質バイオマス発電施設等が整備され、安定的な原木供給への期待が高まっています。一方で、素材（原木）生産の主な担い手となる事業体が市内に不在であることから、市内の森林組合職員に伐採・搬出の技術を習得させるため、県外の先進的な素材生産事業体への派遣研修を実施し、森林組合の原木生産体制の強化に着手しました。

また、原木生産量の増加と主伐後の



確実な再造林に取り組むため、市外の素材生産事業者と森林組合が連携協定を締結し、事業計画段階から両者が事業量、時期、作業方法について打合せを行っています。

加えて、森林組合が主伐を行う現場で、原木市場・製材工場の担当者による採材指導を行っており、収益力アップに向けた職員の意識改革を図っています。

②川中での取組

市内の原木需要は製材用で年間8千 m^3 強ある一方、市内で生産された原木の供給先は、市外向け合板・チップ用が多く、市内製材用へは1千 m^3 強の供給にとどまるなどミスマッチが生じています。このため、市は、公共建築物や民間住宅で市産材の利用を積極的に

推進するため、島根県が行う県産材認証に加え、市産材の認証の取組に着手しました。

また、需要に適時に応じられる安定的な供給体制を構築するため、原木市場で市産材のストックヤードの整備の検討、川上と川下の需要・供給情報を共有する取組を開始しました。

③川下での取組

近年、住宅の品質・性能に対する消費者ニーズの高まりにより、寸法安定性に優れ、強度性能が明確な木材製品が求められています。そこで、木材製品一本ごとにヤング係数などの性能の明確な表示に取り組んでいます。

また、若い世代の、無垢の木を使った家に住みたいという要望に応え、スギの梁・桁での利用など、顔の見える

木材での家づくりの普及や、今後、原木生産量の増加が想定されるスギ・ヒノキを使用したフローリングなどの新用途開発に取り組んでいます。

④森林の多面的利用の推進

林業や木材利用への市民の理解を深めていただくため、市内の小学生を対象に、高性能林業機械による作業見学及び林業について学習する植林体験を実施しました。参加した小学生は初めて体験する林業に感動し、「大人になったら働きたい」と言ってもらえることができました。

さらに、市民理解を促進するため、森林・林業・木材産業関係者による出前講義や現場見学などの活動を進めています。

5. 森づくり構想の実現に向けて

今回の構想の策定にあたり、森林・林業・木材産業関係者の多くのみなさんに協力いただき、現状を共有したことで、多くの課題とともに、みなさんの思いや熱意の共有が図られました。この思いを今後の森づくりにつなげるとともに、先行している取組をさらに深化させ、毎年度の取組について検証・見直しを重ねつつ、大田市の森林・林業・木材産業の発展を目指していきます。



木材市場や製材事業者による採材指導



ストックヤード整備に向けた現地検討



近隣自治体での地域材利用状況の視察



小学生の林業現場見学と植栽体験